

PSC PICK UP! **ピックアップ**

募集

1月6日締切

「社会的事業コーディネーター養成科」受講生募集 (中央職業能力開発協会委託事業)

地域づくり・まちづくりに関心のある方、社会に役立つ仕事をしたいという方、必見です! 「社会的事業コーディネーター養成科(6ヵ月コース)」が、2011年2月から開講します。

「コーディネーター」は、NPO活動や社会的事業において欠かせない存在になってきています。本講座では、社会的事業(NPOを含む)の基礎知識、事例研究、職場体験、演習・フィールドワークなどを通して、コーディネーターとしての基本的なスキルをしっかりと身につけていただきます。(1月6日締切)

求職中または離職中で雇用保険を受給できない方を主な対象としていますが、前回の講座では主婦の方や企業をリタイアされた方なども多くご参加いただきました。2次募集もありますので、詳細はPSCまでお電話ください。(松橋)

ご案内

新春「交流初め」PSC恒例の新春交流会 開催します

PSC会員、企業、NPO、みんな集まって、2011年も笑顔で「協働」への一歩を踏み出そう! 今年も「楽しくって」「ためになる」PSCらしいイベントを企画しています。気軽にお出かけください。みなさんの参加をお待ちしています!

日時・場所: 1月31日(月) 18時~ 池下ピアザ
参加費: PSC会員500円/非会員1000円
お問合せお申込みはPSC交流会担当まで。

募集

子育て支援協働マッチング交流会&「齋藤孝講演会」

NPO法人と自治体とが出会い、ともに協働の可能性を話し合う「マッチング交流会」と、基調講演では『声に出して読みたい日本語』の齋藤孝氏による講演会を行います。

日時 2011年3月10日(木)
場所 愛知芸術文化センター12階アートスペース

PSC代表岸田の「東へ西へ」(2010年11月12月)

11月12月は、パートナーシップ・サポートセンター(PSC)にとっては「パートナーシップ大賞」「協働アイデアコンテスト」という2大自主事業を実施する大事なイベント月でもある。それに加えて、今年度の受託事業がそれぞれ佳境に入っており、それぞれの事業に私自身が直接関わることも多く、めまぐるしいほどの展開であった。

11/2(火)の第3回PSC理事会で中間報告が終わるや、11/4(木)には中小企業コンサルとして私自身がファシリテーターを務める企業の第1回ステークホルダー・ダイアログ。先方も初めての取り組みとあって税金を使って実施していることの意味がまだまだ深く捉えきれない模様。しかしここは最初が肝心、と当日欠席の出た穴埋めをすくさま指示。何とか乗り切ることができ、その後の第2回11/29(月)、第3回12/15(水)と、担当者も本気になって成果も上々。企業自身が最も喜んでいる。11/6(土)からはまちづくり活動人材養成講座・ステップアップ編の第4回~第7回(12/18(土)、最終回)までの事業計画づくりを担当。当初アイデアすら持たなかった受講生が、最後はスライド等を駆使して立派に発表するなどこちらがうれしくなるほどであった。もうひとつ大きな成果をあげておかなければならない。2008年の改善提案から関わっている保養所のスタッフが、11月に行われた「接遇・サービス検定」の3級に11名全員合格したことである。その保養所の経営ミーティングも研修も、相変わらず11/8(月)、11/15(月)、12/6(月)と続いている。それから、静岡県とNPO支援センターの職員研修に、11/24(水)には掛川へ、12/2(木)には伊豆半島の葦山町へ。また、「協働事業模擬仕分けワークショップ」の事業の事前研修として、11/25(木)には北名古屋市で、12/14(火)には西尾市で職員対象に研修。あいちNPO子どもセンターと協働で行

PSC 主な活動2010年11月~12月

- 11/2(火) 名古屋市公共事業評価監視委員会、第3回PSC理事会
- 11/4(木) 南部薬品SHD(第1回)①
- 11/5(金) 「第5回協働アイデアコンテスト」一次審査、ステップコーポレーション
- 11/6(土) まちづくり活動人材養成講座・ステップアップ編(第4回)②
- 11/8(月) 保養所経営ミーティング
- 11/10(水) 名古屋市交通問題調査会来所
- 11/11(木) 静岡県来所
- 11/15(月) 保養所研修
- 11/16(火) 名古屋市公共事業評価監視委員会、なごや環境大学幹事会
- 11/18(木) デンソーユニティ研修、太陽電化工業SHD(第2回)①
- 11/19(金) 桃の館SHD(第1回)①、カフェ・アイリス運営会議
- 11/20(土) まちづくり活動人材養成講座・ステップアップ編(第5回)②
- 11/22(月) 市民セクター全国会議(東京、~23日)
- 11/24(水) 静岡県研修
- 11/25(木) 協働事業模擬仕分けWS・北名古屋市事前研修③、シニアボランティア会議
- 11/27(土) 「第7回パートナーシップ大賞」最終審査&表彰式(1・2・3P)
- 11/28(日) 全国福祉理美容師養成協会活動報告会
- 11/29(月) 南部薬品SHD(第2回)①、NPOと行政の協働に関する実務者会議第2作業部会、子育て支援NPO人材養成講座(岩倉市・第1回)④
- 11/30(火) なごや環境大学全体会議
- 12/1(水) あいちモリコロ基金来所実施状況ヒアリング
- 12/2(木) 静岡県研修(葦山町)
- 12/4(土) まちづくり活動人材養成講座・ステップアップ編(第6回)②
- 12/5(日) 伊良湖フォーラム
- 12/6(月) 保養所月例経営会議、子育て支援NPO人材養成講座(岩倉市・第2回)④
- 12/7(火) 太陽電化工業SHD(第3回)①
- 12/8(水) 中部電力環境懇談会(浜岡視察)、子育て支援NPO人材養成講座(東海市・第1回)④
- 12/9(木) NPOのための広報スキルアップセミナー⑤、JACES足立氏来所
- 12/10(金) 桃の館SHD(第2回)①、社会的事業コーディネーター養成科講座説明会(第1回)、愛知県NPO交流プラザ(新しい公共)
- 12/11(土) 子育て支援NPO人材養成講座(東海市・第2回)④、おうみ未来塾研修
- 12/13(月) 子育て支援NPO人材養成講座(岩倉市・第3回)④
- 12/14(火) 協働事業模擬仕分けWS・西尾市事前研修②、子育て支援NPO人材養成講座(豊田市・第1回)④
- 12/15(水) 南部薬品SHD(第3回)①
- 12/17(金) 子育て支援NPO人材養成講座(豊田市・第2・3回、東海市・第3回)④、「第5回協働アイデアコンテスト」最終選考会④
- 12/18(土) まちづくり活動人材養成講座・ステップアップ編(第7回)・最終②
- 12/19(日) 「環境・持続社会」研究センター(JACES)環境リーダーのための実践的戦略講座(東京・講師)
- 12/21(火) 愛知県「協働事例調査」検討委員会(第3回)、カフェ・アイリス運営会議
- 12/22(水) 愛知県NPOと企業の協働に関する検討会議(第4回)、社会的事業コーディネーター養成科講座説明会
- 12/28(水) 仕事納め

っている「子育て支援NPO人材養成講座」では、岩倉市に12/13(月)、12/16(木)に東海市、12/17(金)には豊田市へ。企業では11/18(木)にデンソーユニティで研修。12/11(土)にはおうみ未来塾(滋賀県)で11期生の研修と、この間研修が続いた。この間を縫って11/22~23日(月・火祝)には市民セクター全国会議(東京)、12/8(水)には中部電力環境懇談会の委員として静岡県の浜岡原発を視察。12/19(日)には「環境・持続社会」研究センターの環境リーダーのための「実践的戦略講座」に講師として参加(東京)。12/22(水)には愛知県「NPOと企業の協働に関する検討会議」(第4回)に参加した。肝心な「パートナーシップ大賞」も「協働アイデアコンテスト」も書く字数がなくなってしまった。他ページを参照いただくしかない。が、実は特筆すべきことが多かった。極めつけは、P賞の審査員が2名も当日欠席という緊急事態に遭遇したこと。急速、調査員の5名に穴埋めしてもらって乗り切ったことを、2010年の書き納めにしてこう(笑)

(2010.12.21 岸田真代)

PSC Report 8

パートナーシップ・サポートセンター Vol.75

発行 特定非営利活動法人 パートナーシップ・サポートセンター(PSC)
〒464-0067 名古屋市千種区池下1丁目11番21号
ファーストビル4F
TEL (052) 762-0401 FAX (052) 762-0407
E-Mail info@psc.or.jp URL http://www.psc.or.jp
発行人・岸田真代

新年のご挨拶

新年のご挨拶を申し上げます。
昨年のパートナーシップ・サポートセンター(PSC)は、ミッションである「NPOと企業の協働」が、「新しい公共」に果たす役割の大きさをかみしめる1年でもありました。

7月の「企業・市民・NPO協働フォーラム」に見た600名の参加と「協働したい」が1日で50件を超えるほどの盛り上がり。「企業&NPO協働アイデアコンテスト」の第2回最優秀賞受賞者が、2年ぶりに実現した「第7回パートナーシップ大賞」で、堂々のグランプリに輝くという思いがけない成果。これまで、それらを意図しながら事業展開してきたとはいえ、ひとつずつ、しっかりとその成果に結びついてきていることへ、正直感動すら覚えます。

こうしたミッション実現に向けての価値ある連携事業は、中小企業へのコンサルティングや自治体における協働事業創出という新たな事業へも着実につながっています。今年はさらに「新しい公共」「社会的責任」に向けての私たちの存在価値が高まるはずで。

どうぞ今年もこれまで以上のご指導ご鞭撻をお願いするとともに、みなさまのご多幸を心からお祈り申し上げます。

2011年元旦
特定非営利活動法人パートナーシップ・サポートセンター(PSC)
代表理事 岸田真代



第7回パートナーシップ大賞 最終審査及びグランプリ発表・表彰式

グランプリは「モバイル型遠隔情報保障システム普及事業」に決定!!

11月27日(土)、「第7回パートナーシップ大賞」の最終審査とグランプリ発表・表彰式が、ウィルあいちにおいて、盛大に行われました。今回は、北は北海道から南は四国・九州まで、まさに全国各地の様々な地域・分野から30事業の応募がありました。その中から、一次審査・二次審査を通過した6事業の最終プレゼンテーションが行われ、パワーポイントや動画など、それぞれ工夫を凝らした魅力あふれるプレゼンテーションに注目が集まりました。

会場に集まった120名の来場者は熱心に耳を傾け、グランプリの行方を見守ります。

今回はどの事業も高く評価され、甲乙付けがたく、最終審査では最後の最後まで白熱した議論が繰り広げられました。

その激戦を勝ち抜いて今回グランプリに輝いたのは、NPO法人長野サマライズ・センターとソフトバンクモバイル株式会社、筑波技術大学の三者協働による「モバイル型遠隔情報保障システム普及事業」でした。長

野サマライズ・センターは、PSCが財団法人中部産業・地域活性化センター(CIRAC)との協働で、2006年度から開催している「企業&NPO協働アイデアコンテスト」の第2回最優秀賞受賞団体です。

NPOからのアイデアを協働に発展させ、パートナーシップ大賞で見事グランプリに輝いたことは、パートナーシップを推進する私たちが描く、協働推進の一つのモデル第1号となりました。私どもPSCにとっても、非常に意義深い第7回パートナーシップ大賞となりました。(水野)



第7回パートナーシップ大賞グランプリ事業

東京都・茨城県・長野県

モバイル型遠隔情報保障システム普及事業

NPO法人長野サマライズ・センター
ソフトバンクモバイル株式会社/筑波技術大学

大学、通信会社、聴覚障害者支援のNPOとが連携し、携帯端末を利用した難聴児(者)への新しい情報保障システムを提案。移動を伴う授業や大人が同席できない環境下でのパソコン要約筆記(文字)通訳を、既存のモバイル端末と既存のフリーソフトとの組合せで実現。全国へ向けてシステムの無料提供を行い、普及拡大に努め、現在3年目を継続中。

審査員コメント: 永田宏和((N)プラス・アーツ理事長)

ツイッターなどネットでいろいろのものが流行る中で、人間関係などが希薄化していくのでは危惧されている反面、今日はその利便性を駆使した素晴らしい事例を見せていただきました。このシステムの普及には、国や行政の助成など、制度を変える必要があります。そのきっかけを創られたと思いますので、ぜひこの活動が広がっていくことを願い、みなさんのさらなる協働にこれからも期待しています。

受賞者コメント

長野サマライズ・センター
副理事長 小笠原恵美子

ソフトバンクさん、筑波技術大学さんにご協力いただき、このような大きな賞をいただくことができました。これからは、自分たちもますます力をつけるようにがんばって、自立できるようにこのシステムの普及にがんばっていききたいと思います。

ソフトバンクモバイル株式会社
総務本部CSR推進部 梅原みどり

この三者での連携は3年目ですが、実は本気でケンカをしたこともありましたが、私たちは聴覚障害者の人たちの情報保障に寄与できるように、この事業を今後もやっていきます。みなさんのおかげです。ありがとうございました。

国立大学法人筑波技術大学
障害者高等教育研究支援センター准教授 三好茂樹

企業、NPO、大学、それぞれの文化があって、お互いに譲れないところや、常識と知っているところがぶつかり合い、この事業は何度も空中分解の危機にぶつかりました。それを乗り越えることができ、このように大きな成果につながったのではないかと考えています。今日はありがとうございました。



1 SHDによる中小企業の活力向上 (愛知県委託事業)

ステークホルダー・ダイアログ (SHD) 本格始動

前号で報告した、PSCの企画による「SHDによる中小企業の活力向上」事業(愛知県委託事業)。名古屋地区はめっき業の太陽電化工業(株)(前号掲載)、三河地区は介護事業の南部薬品(株)、尾張地区は製菓業の(株)桃の館と、各地区からそれぞれ業態が異なる3事業者を決定しました。

昨年7月から募集を始め、年末までに、太陽電化工業3回(1回目10/27、2回目11/18、3回目12/7、4回目は1/19に予定)、南部薬品3回(1回目11/4、2回目11/29、3回目12/15、4回目は1/28に予定)、桃の館2回(1回目11/19、2回目12/10、3回目は1/14、4回目は2/4に予定)と順調に、ダイアログは進行しています。

本事業で最も重要な役割を担うファシリテーターも、各協働企業で手法の異なる3人が担当し、各企業の問題点や課題について、真剣なダイアログが展開されています。

各協働企業は、この機会を経営改善の大きなチャンスととらえ、経営幹部以下積極的に参加していただいています。

毎回どの会場でも、最初はステークホルダー・ダイアログに戸惑い気味の参加者もいますが、終了する頃には、かなり打ち解けて活発かつ新鮮な意見も出るようになり、貴重な時間を共有できました。ともに持続可能な経営に向けて取り組もうという熱意が伝わり、PSCのスタッフも、この熱意を終了まで持続できるようにサポートしていきたいと考えています。(岡)



桃の館



南部薬品



太陽電化工業

2 まちづくり活動 人材養成講座

会社員、主婦、定年退職者など18名の方に参加いただき、ステップアップ編(全7回)を開催しました。最終回はみなさんが事業計画を発表し、「地域の課題」「くらしの課題」を解決するためのグッドアイデアが飛び交いました。

事業計画について講師の方々より厳しいアドバイスが入りつつも、前向きに「想いをかたちにしよう」と意気込む受講生の方々に「本気」を感じました。発表時間も忘れてしまうほどの「熱い想い」をかたちにするために、第一歩を踏み出した受講生の方々。今後、地域のリーダーとして活躍される日を心待ちにしています。(平松)



相互にアドバイス

3 協働事業模擬仕分けモデル市町ワークショップ (愛知県委託事業)

北名古屋市、西尾市で まず協働に関する事前研修を実施

今年度の事業の会場となる両市は、北名古屋市が来年度協働担当課の立ち上げを計画、西尾市が幡豆郡3町との合併が実現と、それぞれエポックを迎えるというタイミング。協働事業仕分けの活用で、行政とNPOとの協働をさらに推進していく新たな節目にしたいと意欲的です。そのために各事業担当の職員の意識を高め、仕分け本番への参加促進にもつながりたいと、岸田代表による事前研修を実施しました。

参加者は北名古屋市が40名強、西尾市が50名強。各担当者がひっかかっていた疑問を引き出し、担当者として進むべき方向を指示させたのではないかと思います。(村田)

11月25日の北名古屋市事前研修



5 NPOのための広報スキルアップセミナー 72名の参加者の熱気で、会場がヒートアップ!

12月9日(木)、PSCと株電通、(N)日本NPOセンターとの共催で「NPOのための広報スキルアップセミナー」を開催しました(会場:(株)電通中部支社)。

事例を織り混ぜたプロ直伝の「伝えるコツ」の講義と、参加団体の広報物を用いた講師からの助言等、内容はもりだくさん。アップテンポで進む講義やワークに、参加者のみなさんは手が休まらない様子。「読み手を意識してつくるなどたくさんの気づきがあった」「ロゴマークやキャッチフレーズの使い方が大いに勉強になった」。セミナー終了後に、参加者同士で感想を話しながら交流する方もあれば、「早く帰って広報物を作りたい!」と足早に会場を後にする方もありました。(下平)



東海三県を中心に新潟県からの参加者も

事務局だより

あけましておめでとうございます。昨年もPSCは多くの興味深い事業を行い、あっという間の1年間でした。個人的に最も印象に残ったものは、7月の企業・市民・NPO協働フォーラムです。驚くほどたくさんの人が参加し、社会が協働に対し高い関心を示はじめてきた事に実感が伴ってきました。今年もまたPSCは大忙しになることでしょう。本年もどうぞよろしく申し上げます。(松本美)



長らくお待たせしました!!

「パートナーシップ大賞」事例集第6弾 『NPO&企業 協働の10年 これまで・これから』

新発売!!!

第6回パートナーシップ大賞グランプリ受賞事例「地域社会の防災力の向上に向けた協働」事業(NPO法人プラス・アーツと東京ガス株式会社の協働)の他、全11事例を紹介。過去のグランプリ受賞者が一堂に会したPSC創立10周年記念シンポジウムで、受賞その後を語り合った模様も収録。協働の歴史が詰まっている1冊です。ぜひご覧下さい!!(山崎)
(単行本 2010年11月発行 1470円税込 サンライズ出版)



協力団体

(N)きょうとNPOセンター、(N)藤沢市市民活動推進連絡会、ソーシャルコーディネートかながわ、(N)社の伝言板ゆるる、金沢大学地域連携推進センター 松下重雄研究室、自由が丘産能短期大学能率科 松本潔研究室、北海道大学経営学部 菅原浩信研究室、山梨大学大学院持続社会形成専攻 長谷川直哉研究室、立命館大学政策科学科 桜井正成研究室

協賛企業

三井住友海上火災保険(株)、トヨタ自動車(株)、(株)デンソー、京阪電気鉄道(株)大津鉄道事業部、(財)中部産業・地域活性化センター、(株)高田自動車学校遠野ドライビングスクール、(株)アバンセコーポレーション(順不同)

ミニ講演

第5回パートナーシップ大賞グランプリ受賞「その後」 「電車が“つなぐ”まちの文化・人のこころ」

福井 美知子氏 / 石坂線21駅の顔づくりグループ 代表

この賞をいただいて今日までの3年間を振り返ってみると、パートナーシップ・サポートセンターの岸田さんをはじめとする、みなさんが創り提供しているネットワークの力の素晴らしさは、私たちのその後の活動に、非常に大きな意義をもたらしてくれました。

この活動は、「市民に愛され信頼される鉄道でありたい」というモットーを持つ京阪電車の大津鉄道事業部の願いと、地域の電車が、人と人をつなぐ存在であったと気づいた市民たちとで活動をしています。

2001年、行政の呼びかけで集まった地域のまちづくりに関心のあるNPOなど多くのグループが、大津のまちづくりに「京阪石坂線を活かそう」という提案をしました。行政が仲人をしてくれ、京阪さんと出会い、駅は自分の住む家の玄関である、駅と家をつなぐ働きかけができないか、ということで「駅の顔づくり」をしました。駅に花壇をつくり、掲示板を学校の作品発表の場に、いくつかの駅が「点」でつながりました。そして全部の学校の作品を電車で乗せて文化祭を行いました。全長14.1km。日本で一番細長い美術館ができました。今度は「線」がつながりました。ある時1人のスタッフが「高校の時に、あの電車のあの時間にあの娘が乗っていたので、ぼくはいつもここに乘っていた」とつぶやきました。それを聞いて、同じ時代に電車に乗っていた人たちの、「青春同窓会号」を企画しました。「電車と青春初恋」というテーマで全国からメッセージを公募しました。1年目で2300通もの応募があり、審査員は横方智さんをお願いしました。

その後、私たちは電車を使った活動を通じ、もっと多くの市民の意見を組み込みたいという思いから「市民メディア」を発行しました。インタビューや記者会見、編集など全部で6回の市民記者養成講座を行い、「21世紀タイムス」ができました。1万部発行し、各駅や銀行などで配布しています。現在は「電車」をキーワードに、社会福祉協議会、周辺企業、自治会、NPOなど、多くの団体と連携し、共有する様々な活動に発展しています。

これからも、さらにネットワークを駆使して、企業と市民が思いを一つにし、持続可能な心と笑顔が生まれるまちづくりに取り組んでいきたいと思っています。



第7回パートナーシップ賞【5事業】

東京都・大阪府 高齢化する村を応援するプロジェクト事業

NPO法人棚田ネットワーク
アストラゼネカ株式会社

社員3000人規模の製薬会社社員全員が年に1度、全国の棚田保全を行うNPOのコーディネイトにより、高齢化・過疎化の著しい農山村地域で、農作業、山仕事、環境整備等を支援する活動を5年間継続している。



審査員コメント：森撰（株）オルタナ代表取締役社長）

田んぼ・棚田というのは、なかなか東京や大都会には分かりません。つまり一般の国民からはなかなか関心が集まらない。世界的な製薬メーカーの方が、協働を始めたというところに、大きな意義があるプロジェクトだと感じました。3000人×8時間=24000時間。1つの会社からこれだけの人が棚田に向かいました。365日のうちの1日ですが、これから広がっていく中の最初の1日であると期待しています。

東京都 未来をつなぐ夢はさみ美容職業訓練事業

NPO法人国境なき子どもたち
ヘンケルジャパン株式会社

国際支援を行うNPOと、化粧品を製造販売する企業との連携で、カンボジアの青少年に、日本の高い美容技術を伝えて職業訓練を行い、現地の若者の自立支援を促す。トレーナーは全国的美容サロンから募集。



審査員コメント：森撰（株）オルタナ代表取締役社長）

「無関心」、英語で言うと「apathyアパシイ」との戦いだと思ってしまう。こういった人たちのことを日本の人たちにどうやって伝えていくのか…現地で活動するのと同じくらい大事なことです。今回の活動は、若い人たちが中心になっている。つまり若い人たちの活動によってもっと上の世代の人たちを自覚めさせていく、ということがこれから大事だと思っています。これからも頑張ってください。

愛知県 高齢者介護施設ビューティーキャラバン事業

NPO法人全国福祉美容師養成協会
東海ゴム工業株式会社

訪問理美容サービスを行うNPOと企業、地元大学の協働で、介護施設に入所する高齢者への「ビューティーキャラバン」を展開。ファッションコーディネートとヘアメイクをして、その姿を写真に収め家族にも送付する。



審査員コメント：今田忠（市民社会研究所所長/日本NPO学会顧問）

両者が協定を結んできっちりされているところなど、ある意味非常にビジネスライクにされている。それだけに大きな成果をもたらしている事業です。もう一つは、NPOと企業と大学の学生が協働で行っているところが、非常に素晴らしいことです。NPOは事業型NPOとしてのビジネスモデルを開発し、非常に大きなコーディネート力を発揮しているところが高く評価されました。

福岡県 車いす用雨カバー「ヌレント」開発事業

NPO法人クックルー・ステップ
トヨタハートフルプラザ福岡

雨天時の車いす用の雨カバーを、福祉車両の展示を行う自動車メーカーと共同開発。全国のトヨタハートフルプラザの店で販売。雨の日のみならず「寒さよけ」「日よけ」「風よけ」と「交通安全」にも効果をもたらした。



審査員コメント：岸田眞代（PSC代表理事）

この事業は、当事者の本当に強い思いから生まれた事業です。それをしっかりと受け止めた企業が、4つの試作品を作るといった、とても協働度の高い事業でした。NPOの熱心な投げかけに対して企業が丁寧に応えていくすばらしいと思いました。この商品、待ち望んでいる人が全国に沢山いらっしゃいます。ぜひ広めていただき、このパートナーシップ賞がさらに生きていくことを期待しております。

佐賀県 食資源循環活動による環境のまちづくり事業

NPO法人伊万里はちがめプラン
有限会社北九給食センター、医療法人 光仁会

飲食店や食品関連企業、病院等から出される生ごみを、NPOが営むプラントで堆肥化し、地域の農産物直売所やレストラン・ホテル等で販売。一般家庭からも生ごみを回収し、市民のリサイクル意識も向上している。



審査員コメント：今田忠（市民社会研究所所長/日本NPO学会顧問）

伊万里はちがめプランも、全国的に有名なNPOですので、他の地域への指導も行っておられるということで高く評価されました。これから様々な地域でモデルをつくっていただきたいと思います。菜の花プロジェクトにも、今後の拡がりに期待をしております。このような取り組みが引き続き市民と行政を巻き込んで、さらに発展・継続され、全国の環境への取り組みも、進歩するのではないかと期待しています。

協働の夢を熱く語る懇親会パーティー

パートナーシップ大賞表彰式のあと、緊張感あふれるプログラムとは一転、会場後方は楽しい懇親会会場となりました。最終プレゼンテーションに挑んだNPOと企業のみならず、最終審査では意見ももつれにもつれた審査員の方々、その結果を見守った会場のみならず、パートナーシップ大賞スタッフのメンバーとが、互いにグラスをかたむけ、交流を図りました。PSC監事の面高氏による乾杯の挨拶にはじまり、それぞれに協働への思いや夢を語り合う中で、次なる協働の可能性をも実感できた宴となりました。
(水野)

CIRAC & PSC 協働事業 第5回企業&NPO協働アイデアコンテスト

「どのアイデアも最優秀賞にしたい!!」 第5回はハイレベルな戦いに

最優秀賞は NPO法人近江八幡市中間支援センター 「外来魚を利用した『沖島よそのコロッケ』の開発、販売事業」が獲得!!

5回を迎えた「企業&NPO協働アイデアコンテスト」。最終選考会は年の瀬も目の前の12月17日、110名が参加して名古屋栄ビルで開催しました。

28件の応募の中から書類審査を通過したNPO5団体が、三重県や静岡県などから来られ、自らの協働事業アイデアを会場で発表。多くの企業関係者も聴き入る中、最優秀賞と協働成立を目指し、熱いプレゼンテーションを繰り広げました。

会場参加者の投票も併せた審査の結果、見事最優秀賞に輝いたのは「外来魚を利用した『沖島よそのコロッケ』の開発、販売事業」。琵琶湖上の島「沖島」で増えすぎて廃棄されている外来魚のブラックバスを利用して、コロッケを作り地元の観光地で販売しようというもの。外来魚という地域課題を観光地である近江八幡の地域資源として活用するという点が評価されました。他の4団体のプレゼンにも会場から「アイデアに環境の要素を入れた方がいいのでは」などのアドバイスや質問が出され、活気あるコンテストとなりました。

結果発表も兼ねた交流会には、本コンテスト第2回最優秀賞となり、その後協働が成立し、11月の第7回パートナーシップ大賞でグランプリを獲得した(N)長野サマライズ・センターの小笠原副

理事長が参加。「今回はアイデアのレベルが高い。賞を獲得したことをきっかけに、いろんな企業にアイデアを持ちかけぜひ協働を実現させて、パートナーシップ大賞に応募できるような事業となれるよう頑張ってください」とお話しいただきました。

岸田PSC代表理事からの「NPOのミッションだけでなく、協働における企業の役割やメリットを具体的に伝えていたのがよかった。アイデアの中身の濃いコンテストだったことは、主催者として誇りに思う」との講評に会場は大盛り上がり。参加者 同士の話も弾み、NPOと企業の交流が進んだ一日となりました。
(山崎)



アイデアの実現に向け決意を新たに!

◆その他の受賞団体

	団体名	所在地	事業名	協働アイデア事業概要
優秀賞	育児ひろばアプリコット	滋賀県	親子ひろばin住宅展示場	平日昼間、空いている住宅展示場やモデルハウスで、NPO主催の親子カフェや主婦向けイベントを開く。
特別賞	NPO法人 悠遊くうかん木海香の里	三重県	ヒノキ間伐材を活用した滞在型キットハウス建設	尾鷲産ヒノキ間伐材を活用したキットハウスを、都市部在住者や地元住民・企業が協働で企画開発。滞在型交流拠点とし、移住の推進や地元活性化につなげる。
奨励賞	NPO法人魅惑的倶楽部	静岡県	Red Ribbon Brand	エイズ患者への理解と支援のシンボル「レッドリボン」を刺繍・プリントした衣料をアパレル企業で販売。売上げの一部はエイズ予防財団などに還元する。
	Social Guide	愛知県	ウェルカム・インフォメーション	ハウスメーカーやライフラインに関する企業と協働で、新規住民へ地域の魅力や生活情報などを発信する。



講演 新しい社会的責任の時代へ
～ISO26000ガイドンスの意義を考える
(株)損害保険ジャパン 理事 CSR統括部長 関正雄氏

今日は、11月1日に発行されたISO26000について、ご紹介したいと思います。ユニークな中身です。みなさまの活動の参考にもなると思います。

CSRに関して企業にどのような分野の貢献を希望するか、消費者意識を比較するデータを見ると、国によって、また先進国、途上国でも関心は違いますが、環境問題と貧困問題は世界で並行して取り組んでいかなければならない問題といえます。

ISO26000の背景にある考え方は、新しいグローバルな課題に対して、企業・政府・NGOだけではなく、労働組合・投資家・大学・消費者などさまざまな主体が公の課題解決に参加する必要があるというものです。ISO初の、マルチステークホルダー参加による規格策定を行い、企業だけでなく全ての組織が使えるものになっています。また、ISO14000のような第三者認証はなく、推奨事項であることも特徴です。

ISO26000を一言で言うと、持続可能な発展を実現するために、世界最大の国際標準化機構ISOによって、多様な参加者のプロセスで開発された、あらゆる組織に向けた、社会的責任に関する初の包括的・詳細な手引き書であるということです。内容は、用語の定義や社会的責任の理解や原則、具体的に何をすればよいか、どのように実行していくかが書かれています。また、この規格のユニークな特徴はその中身だけでなく、多数決を取らず完全に意見が一致するまで徹底的に議論してつくられたというプロセスにもあります。

そして、途上国の参加が非常に多く、世界中のみんなで作ったという意識があることもすばらしい点の一つです。

まずはこの規格の全体像を把握して、CSRの目標を絞っていく時のツールとして活用するのがよいと思います。ぜひ多くの人に活用していただきたいと思っています。

最優秀賞受賞コメント

NPO法人近江八幡市中間支援センター
まちづくり支援員 山本美枝さん

まさか、この強豪が揃っている中で1位になるとは思っていませんでした。朝4時半に起きてコロッケを揚げた甲斐がありました。

外来種の魚により、苦しい状況におかれている琵琶湖。本来の琵琶湖に少しでも戻したいです。

コロッケに対する厳しい意見もありましたが、このような場所で発表することで貴重なアドバイスをいただけたと思います。沖島を元気にするため、実現に向けこれからもがんばっていききたいと思っています。ありがとうございました。

